

工

石

西

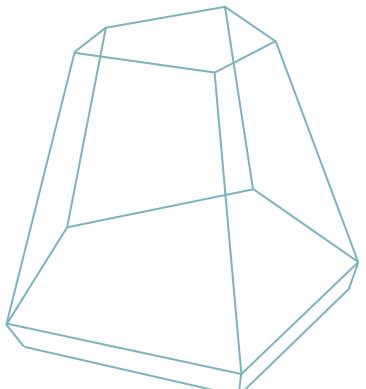
業

手

毛

所

鏡



| Sustainability Report |

# 目次

---

- 01 目次・編集方針
- 02 企業紹介・経営理念・企業情報
- 03 これが、NISHIOの哲学
- 05 NISHIOのサステナビリティ
- 07 NISHIOのDUAL
- 09 反射** お客様に向き合いニーズを付加価値でお返しする
  - 11 お客様の立場になる
  - 13 新しい価値を提供する
- 15 透過** ものづくりで価値をお届けする
  - 17 社内環境の整備
  - 18 社員への思いやり
  - 19 技術と理念
- 21 職人にとって「一技術三人体制」とは
- 23 NISHIOの工場見学
- 25 地元大田区に根差したNISHIO
- 27 創業時からの歴史と想い
- 29 NISHIOの受賞歴
- 30 編集後記



## 編集方針

---

武藏大学三学部横断型ゼミナール・プロジェクトは、西尾硝子鏡工業所を多角的に調査、考察し、「Sustainability Report」の形でまとめました。私たちは、「サステナビリティ（Sustainability）」の動詞であり、様々な意味を持つ「Sustain」という言葉に重点を置きました。また、「Sustain」に向けた取り組みを、西尾硝子鏡工業所の製品であるDUALの「反射」「透過」という二面性を枠組みにあてはめ、報告致します。



# 企業紹介

西尾硝子鏡工業所はガラス・鏡の加工卸事業・内装工事事業・ショーケースやインテリアといった完成品事業を行っている企業です。1932年の創業以来培ってきた職人のワザ・知恵と最新の機械の融合を通じ、常にお客様の視点に立ちながら様々な人々のライフスタイルを豊かにしています。

「空間に命を吹き込むガラス・鏡をプロデュース」というコンセプトのもと、企画・設計・加工・施工・制作をしており、「ガラス板同士を接着面が分からないように貼り合わせる技術」を用いたショーケースの加工が強みです。どの角度からも商品をきれいに魅せられるよう、コンマ何ミリの精度で接着し、気泡の入らない美しい仕上がりを実現しており、大手百貨店や世界に名立たる多くの高級ブランドショップにも納品しています。

## 経営理念

- ◆お客様にとっての問題を解決でき、喜びと満足を提供し、「共有」できる、生きた技術集団になろう。
- ◆「お客様」「仕入先」「地域」「社員の家族」から信頼・安心・愛され続ける会社になる。
- ◆高い技術力を持った変化に対応、成長できるプロ集団になる！

## 企業情報

株式会社西尾硝子鏡工業所

代表者 代表取締役 西尾 智之

所在地 〒143-0016

東京都大田区大森北5-9-12

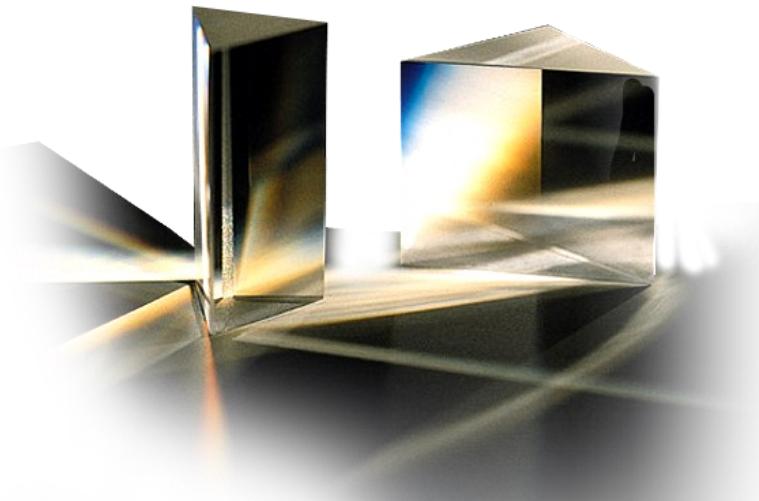
創業 1932年（昭和7年）7月

事業内容 一般板ガラス・鏡の加工卸、内装工事

会社HP <http://www.nishio-m.co.jp/>

DUAL HP <https://showcase-dual.jp/>

Mirror Style HP <http://www.mirror-style.jp/>



# これが、 NISHIの哲学

西尾硝子鏡工業所の企業活動においての基本姿勢や、心がけていることを紹介します。

ほしいときに  
すぐ

納期の順守を徹底することにより、お客様が必要なときに製品が手に入るという状態を作ります。「ほしい時にすぐ手に入る」ことで、お客様から求められる企業であり続けるのです。

あなたの  
日常の一部  
になるように

利用者や利用シーンを想像し、お客様一人ひとりに合ったものを作ります。ご注文を頂いたものを誰が何に使うか理解することで、施すべき工夫や気遣いが明確になります。高い技術に加え、「あなたのためのものをつくる」ことで製品の価値を高めていきます。ニーズを形にしていくのが製造業のおもしろいところです。

人と  
向き合って  
話す

お客様とのコミュニケーションは何よりも大切です。昔から続けてきた対面のコミュニケーションを今も変わらず大切にしています。ニーズを細かに聞き、お客様の理想に最大限に近づけた製品を提供することがこだわりです。

また、社内のコミュニケーションも大切にします。日頃の心がけで社員間の連携がスムーズになり、効率の良い作業体制を作り出すことが可能になります。高頻度での部署を超えた集まりや、実務指導を通じた熟練と若手の関係づくりなど、様々なコミュニケーションの機会がより話しやすい環境の醸成に貢献しています。

作り手の  
声に耳を  
傾ける

ものづくりに携わる社員が企業の方向性に納得して取り組むことができる環境づくりが大切です。決して押し付けにならないよう、お客様の声を踏まえつつ作り手となる技術者一人ひとりが実際にどう思い、どうしたいかも尊重します。



技術を守り、磨いていくことを大切にします。価格競争を強いられる市場環境において付加価値の高い製品を生み出し、西尾硝子鏡工業所にしかできない価値をお届けします。

## 技を磨き 続ける

現在は、会社のトップが全てを決める時代ではありません。経営理念を決める際にも、社員との話し合いを欠かすことはできません。新しい取り組みを始める際にも、まず経営トップから行動を起こしていきます。言ったままではなく率先して行動していくことで、社員にもその輪を広げていきます。また月に1回定期的に、『西尾通信』という社外向け通信を発信しています。こちらでは日々の気づきや考えていることをお届けしています。

「お客様に選ばれる」という意識を大切にします。私たちの製品がなぜ選ばれるのか、お客様の声を聞き、明確に分析をします。現在は「競争」ではなく「共生」の時代であるという認識で、他社企業ともお互いの強みを補完しあい、より良いものを世の中にお届けするというスタンスをとっています。

## 真に リード すること

## 競争 ではなく 共生

私たちはフットワークの軽さを活かし、どこにどのようなニーズがあるのかを探し求めています。長く携わり続けてきたガラスと鏡で、お客様の要望にどのようなアプローチができるのか考え、新しい価値を生み出すことに積極的に挑み続けます。

## いつまでも 挑戦を 続ける

# NISHIのサステナビリティ

企業は利益追求だけではなく、社会への貢献をしていかなければなりません。社会への貢献の仕方や定義は今日まで様々な議論がなされていますが、企業と社会が共に持続できる「サステナビリティ」によって社会貢献を果たそうという姿勢が見られます。近年では、それを果たす手段として、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の達成を目標にする企業が多く存在します。

SDGsとは、「持続可能な社会」を世界共通の目標として、各国政府・国連・企業を含む地球上に住むすべての人々で取り組むべく明文化したもので、2015年9月の国連サミットで採択されました。SDGsには地球環境や経済・産業活動の持続はもちろん、貧困や健康など人権に関する項目を含めた17のゴール・169のターゲットが設定されており、様々な社会問題を解決し、地球全体が持続・発展していくことを目標としています。

このように重要視されている「サステナビリティ（Sustainability）」は「持続可能性」という意味になりますが、「サステナビリティ」の動詞である「Sustain」という言葉には以下のように様々な意味があります。

- ①存続する ②耐える ③糧になる ④元気づける ⑤支える ⑥解決策を見出す

「サステナビリティ・レポート」と題し、企業と社会の持続性をまとめた報告書はSDGsの誕生以前から存在しますが、西尾硝子鏡工業所における「サステナビリティ・レポート」ではこの「Sustain」に着目することで、より発展した持続可能性を見出しています。

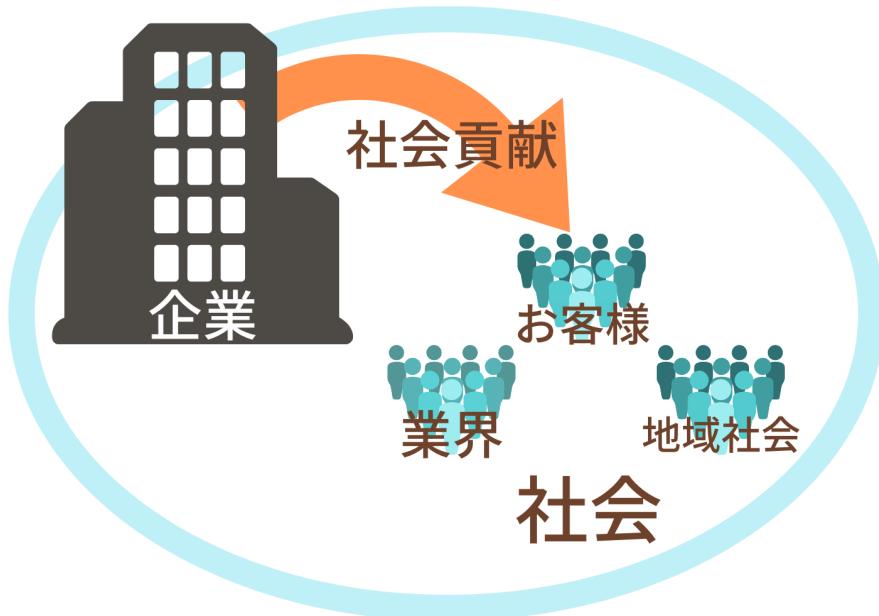


図1 従来のサステナビリティ

企業の社会貢献によって社会を豊かにすることで、企業へのリターンが大きくなることを期待している。社会が豊かになり、企業がその恩恵を受けることに持続可能性を見出している。

多くの企業は、お客様のニーズを満たすことにより、利益を生み出しています。西尾硝子鏡工業所では、ニーズに応えることを「不（不安・不便・不満…）」の解決と捉え、お客様の立場から物事を深く理解し「不」の本質を見つけることで、本来のニーズを超えた新たな付加価値を生み出しています。その付加価値がお客様に評価されることで求められるニーズはより大きくなり、顧客だけでなく、地域社会、社員などのあらゆる問題への配慮が求められるようになります。その要求に応えるために企業は技術やサービスを高めていくのです。

このように、社会が企業への期待を高め、企業が社会へ意識を向けていくことで、社会と企業のつながりは強化され、強い信頼関係を形成し、ともに持続していくことができるのです。西尾硝子鏡工業所は業界内、大田区内で信頼関係を築き上げており、町工場という特徴を活かしながら周りの企業と共に共生し、支え合っています。

西尾硝子鏡工業所と社会がお互いに意識を高め、求めあうこの姿勢は、まさに「Sustain」を体現しているのです。

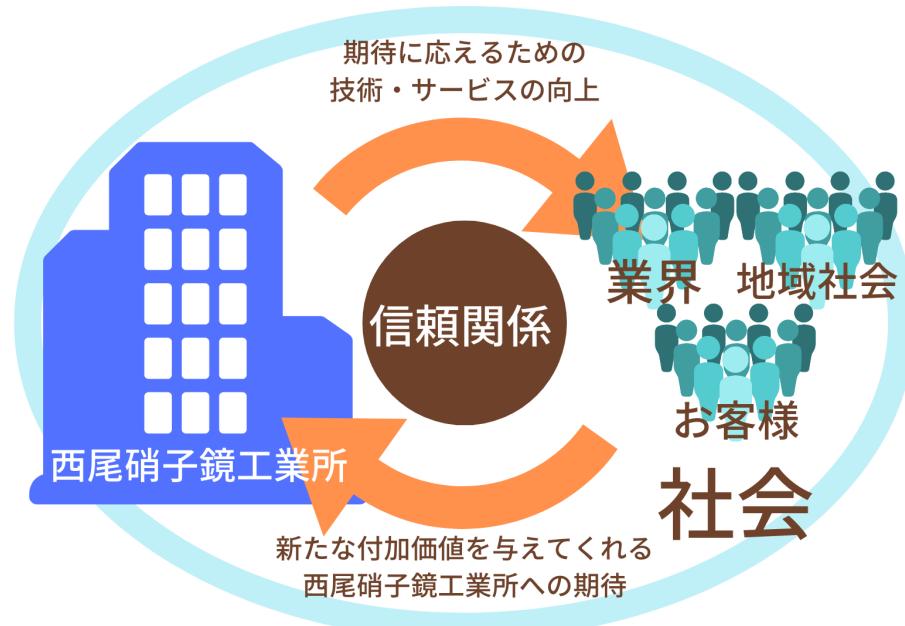


図2 西尾硝子鏡工業所のサステナビリティ

お客様などの社会の「不」の根本を理解し、従来のニーズを超えた「付加価値」のある商品を提供する。それによって、社会が企業に対する期待を深め、企業はより高い技術、サービスで返す。企業が社会の期待に応えることで信頼関係を築き、お互いが意識を高めあうことで持続可能性を見出している。



NISHI の DUAL

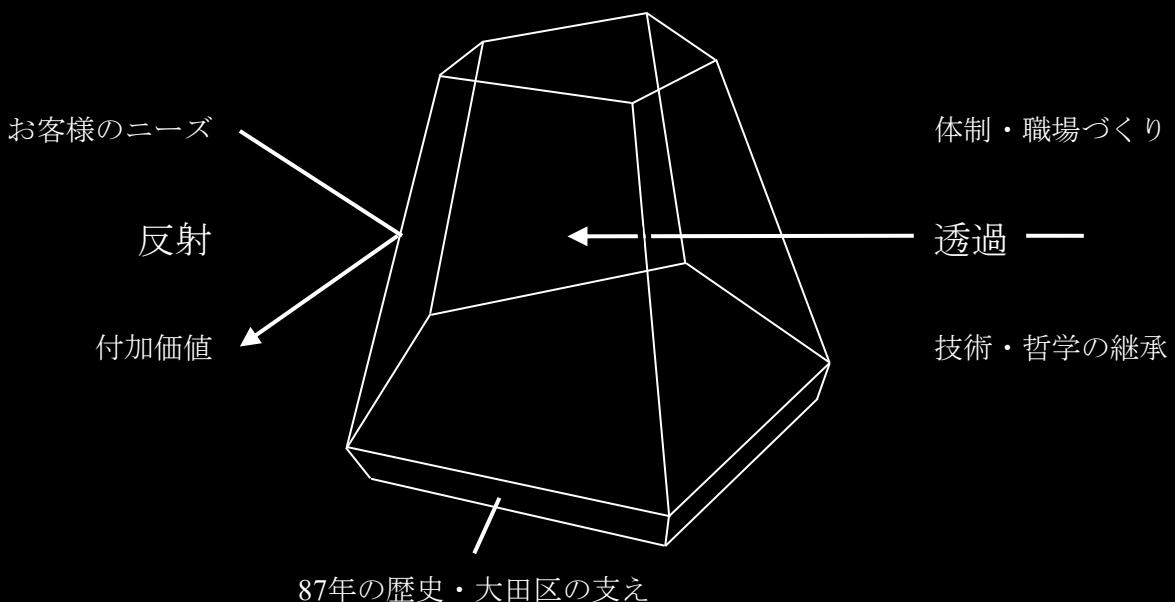
DUALとは、照明消灯時には光を反射する鏡の性質を、照明点灯時には光を透過するガラスの性質を発揮するハーフミラーガラスの特性を活かしたショーケースです。その名前に「二面性がある」という意味を持ち、鏡とガラスの魅力を併せ持つことで、中のものをより魅力的、幻想的に演出します。DUALはお客様とのコミュニケーションの中でそのニーズに応えるべく、製品そのもののみならず、「見せ方」という価値にフォーカスした製品です。

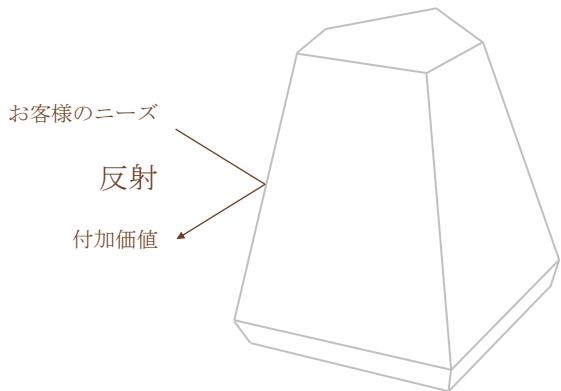
ハーフミラーガラス自体は目新しいものではなく一般的な素材で、元々インテリアの分野で使用されるような素材ではありませんでした。ガラスであり、鏡でもあるいとう性質自体には従来の価値しかありません。しかし、「お客様の大切なものを引き立てる」というコトに価値があります。このように一般的な素材を使っても、新しい用途に焦点を当てることで、製品は新たな価値を持ちます。DUALの開発によって、インテリアや宝飾、ホテルといった新しい分野でのニーズに応えることができるようになりました。

DUALは多くの工程を機械で行いながらも、接着や最終仕上げは職人の技術と知識によって行われています。長年お客様と向き合い続け、様々なニーズを感じてきた、西尾硝子鏡工業所の取り組みのすべてが集約されている製品です。またDUALをはじめとする西尾硝子鏡工業所の企業活動は、企業の土台となる80年以上続く長い歴史と地元である大田区の支えによって成り立っています。

西尾硝子鏡工業所が社会との「Sustain」を築き上げるためのプロセスは、DUALの持つ反射・透過の二面性で表すことができます。「反射」ではお客様に向かい、ニーズを付加価値でお返しするための取り組みと精神を、「透過」ではものづくりで価値をお届けするための体制や職場づくり、技術や哲学の継承を紹介します。また反射・透過によるSustainを支える土台である西尾硝子鏡工業所の歴史と大田区との繋がりを紹介します。

#### | 西尾硝子鏡工業所のサステナビリティを築くプロセス



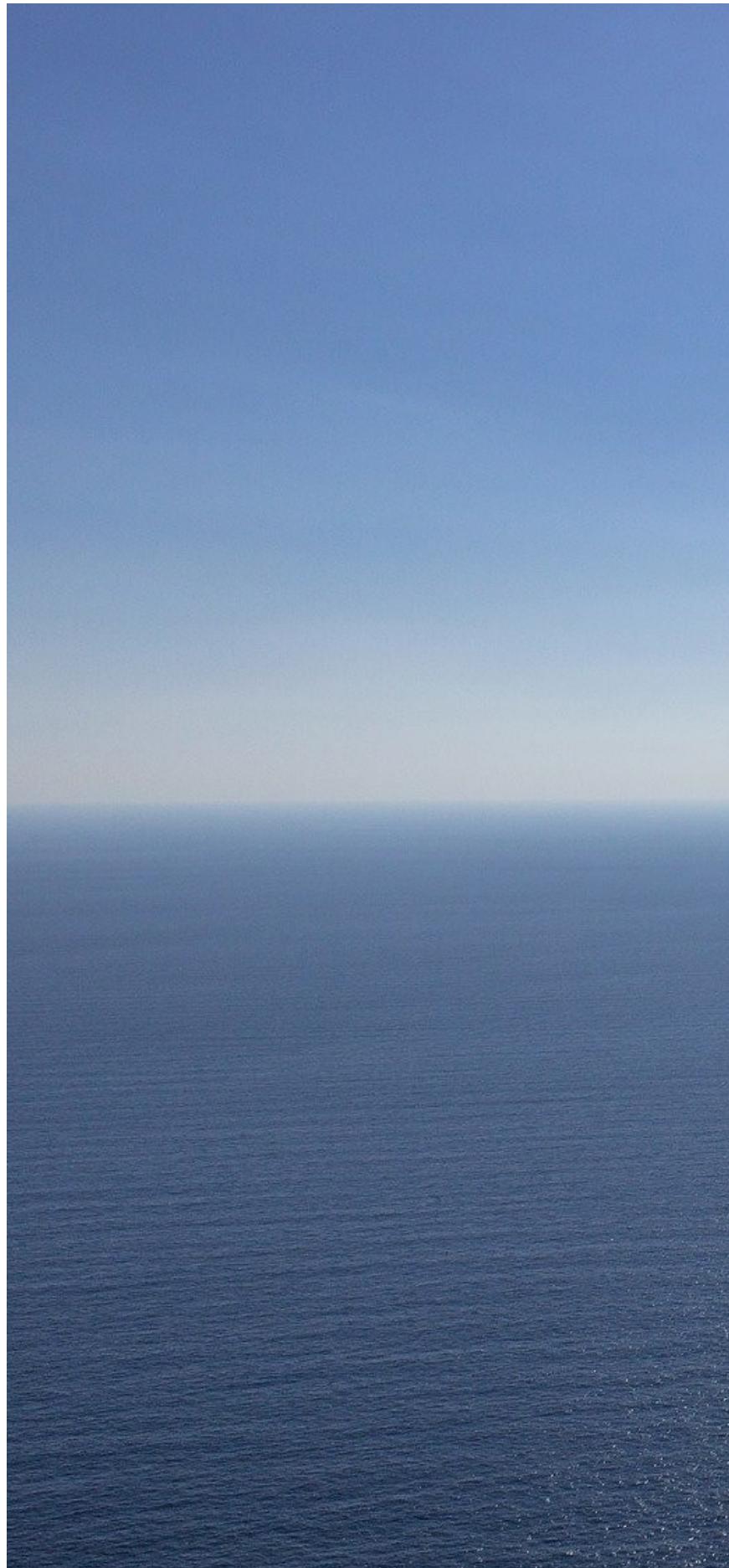


西尾硝子鏡工業所は、お客様の立場に立ったものづくりを行っています。

お客様の「不」を感じ、自分事として捉えることにより、永く磨き続けてきた技術で、どのように製品・サービスとして形にできるのか最後まで考え、責任をもって寄り添い続けます。少子化や人口変動、世界規模で進むグローバル化などにより近年、ライフスタイルは多様に変化してきました。

私たちにとって、お客様の多様な声はまさに光です。DUALが消灯するとガラスから鏡となり光を反射するように、西尾硝子鏡工業所ではこの光を吸収し続け、多様化するお客様のニーズを反映した製品・サービスで解決しています。

西尾硝子鏡工業所は「お客様の立場になる」「新しい価値を提供する」を通して、製品をお届けし、お客様・地域の方々をはじめとする皆様と価値を分かち合い、共に歩んでいきます。



# 反射

---

お客様に向き合い  
ニーズを付加価値でお返しする

# お客様の立場になる

常にお客様の立場になって考え、お客様の抱える様々な「不」を共に見つけ出していくます。それらを解決すべく、信頼に足る技術や知識を惜しみなく絶え間なく追求し、お客様の求める価値を提供していきます。

## 「欲しい時に」「欲しい物を」お届けする

お客様の要望に的確に応え、短い納期でも確実に納品できるよう、ガラスの切断から磨き、接着まですべての工程を大田区の自社工場で一貫して行っています。この一貫生産体制により、持ち込みの木工下台への取付け・現場での取付け設置・強化・曲げ・変形・高透過ガラス・フィルム貼りといった、お客様の多様なニーズに対応することができます。

また一貫生産により作業効率を最大限に高め、お客様に欲しいものを欲しい時にお届けできるようにしています。



クレーンを使って大きなガラスを運ぶ職人。

鏡の大きさによっては120kgにおよぶことも。



職人が機械を使用してガラスを加工する。

コンマミリの繊細な作業は美しい接着面に不可欠。

## | デジタルとアナログの融合

機械の導入により生産効率を上げながらも、機械ではどうしても補えない細かな部分の加工を、長年培ってきたワザと知恵を活かした手作業で行っています。

ガラス同士の接着面を45度に加工し、気泡が入らずつなぎ目が見えないように接着する技術は、西尾硝子鏡工業所だけがお客様に提供できる価値です。デジタルとアナログを融合した加工は、より正確で高度な技術を活かせるだけでなく、人の手で作る温かみや職人一人ひとりが魂を吹き込んで作っていることをお客様に感じていただけます。



機械を使った鏡のカッティング。機械から風が出ており、重い鏡を浮かせながら作業をすることができる。



飛散防止フィルムを貼り付けている。

フィルムの種類によって色や柄を変えることもできる。

## | お客様の安心・安全を追求

台風、地震が頻繁に起こる災害大国である日本で、ガラス・鏡という日常に欠かせない製品を扱っている西尾硝子鏡工業所では、安心・安全な製品開発に努めています。

ガラスや鏡は、災害時に割れる、欠けることで、人を傷つける凶器になる恐れを秘めています。怪我のリスクを未然に防ぐために、ガラスにフィルムを貼り、飛散防止を図っています。

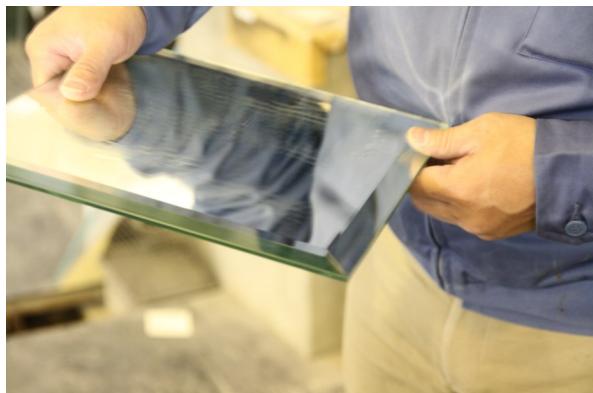
# 新しい価値を提供する

多様化するライフスタイルに応えるため、技術をどのように使用するか挑戦し、皆さまに新しい価値を提案・提供していきます。社内で一貫してひとつの製品を完成させることで、より細やかなニーズに対応することができるようになっています。やがて国境を越え、国内外の多様なニーズに応えられる製品・サービスの展開を進めています。

## | 鏡専門コンシェルジュ

ミラースタイルというオーダーメイドミラーの制作を行っています。この事業は「ミラーコンシェルジュ」という名前で商標登録しており、お客様の鏡に関する悩みを聞き解決する仕事としています。

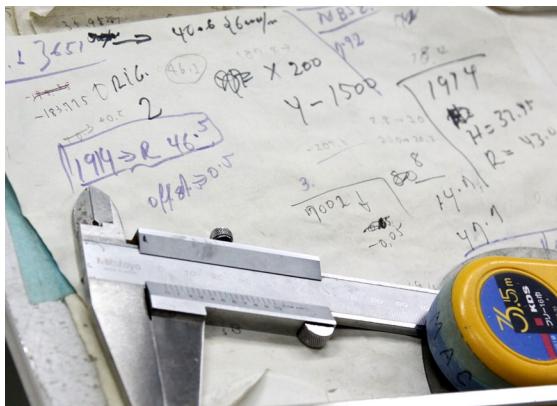
お客様ごとに異なる住まいの空間への思いを受け止め、綿密なコミュニケーションを通して、納得のいく提案をしていきます。製造業でありながら同時にサービス業でもあることを意識し、鏡によって皆様の笑顔あふれる生活をもたらすことを大切にしています。



ふちに加工を施した鏡。曲面への加工希望にも応えている。



職人の手によって加工されるガラス。切削面の鋭さをなくし、ケガを防止する。



職人のメモ。お客様のご要望から寸分たりともずれないようにミリ単位で調整する。

## | 鏡の新しい用途を拓く

セミDXミラーという屋外でも使用できる鏡の塗装技術を業界で初めて開発しました。本来、鏡は湿気や熱に弱いため屋外では使用できないと考えられていました。

そこで西尾硝子鏡工業所では長年培ってきた劣化防止のコーティング技術を応用し、独自のコーティングを施すことで、ガラス破損時の飛散防止効果と腐食防止効果を併せ持つ鏡を生み出しました。安全で長期的に使用でき、屋外でも外気による影響を受けにくいため、従来では利用することが困難であった様々なシーンで利用することが可能になりました。

現在、アラブ首長国連邦の首都アブダビにおいて、1500枚にのぼるセミDXミラーが太陽熱発電に使用されています。飛散防止効果による安全性、腐食防止効果による耐久性、さらにはセルフコーティング（雨によって鏡についた汚れを洗い流せるようにする）という技術による資源の節約を可能にしたことが大きなポイントです。このセルフコーティングの実現前は鏡の上に積もった砂を1週間毎に洗浄していました。アブダビでの実験はCO<sub>2</sub>排出量を削減した太陽熱発電というクリーンなエネルギー開発の分野への貢献が期待できることが評価され、2013年度東京商工会議所「勇気ある経営大賞〈優秀賞〉」の受賞にもつながりました。

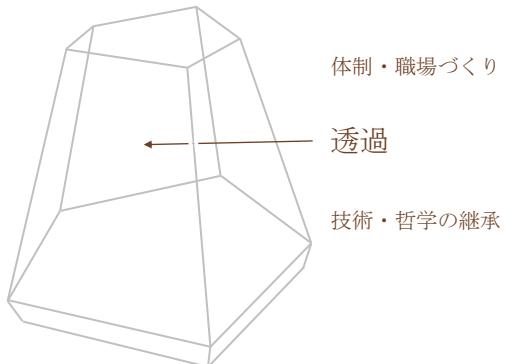


アラブ首長国連邦での  
太陽熱発電実験  
下方のセミDXミラーで光を  
集め右の建物に熱を集めて  
タービンを回す。大手企業  
との共同開発に参加した。

# 透過

---

ものづくりで価値をお届けする



西尾硝子鏡工業所には、ものづくりに対する熱い哲学があります。その哲学を80年以上にわたり、守り続けてきました。私たちがものづくりを続けることができた背景には、常にものづくりを支えてきた「人」の存在があります。お客様に私たちのものづくりをお届けするためには、まず私たちが組織として健全に機能し、常に価値を発信できる体制を整えていることが欠かせません。

ガラスや鏡のような透明度の高い組織であり、お客様に歪むことのない価値を反映していくためには、小さな部分にも目を凝らし、細かな磨きや整理といったメンテナンスが必要です。メンテナンスを正常に安心して行えるようになるには、社員が安心して働く職場づくりをすることが大切です。

さらに、DUALの内部で、ハーフミラーが透過されディスプレイ内部の景色が幾度となく反射する様子は、西尾硝子鏡工業所の終わりなき技術の追求や、哲学が永く続く姿を表しています。社員・社内に西尾硝子鏡工業所の哲学がつながっていくことによって、絶え間ない思いや技術の継承が可能になります。

# 社内環境の整備

西尾硝子鏡工業所では、社内の環境改善という小さな部分から、一つひとつ丁寧に取り組んでいます。

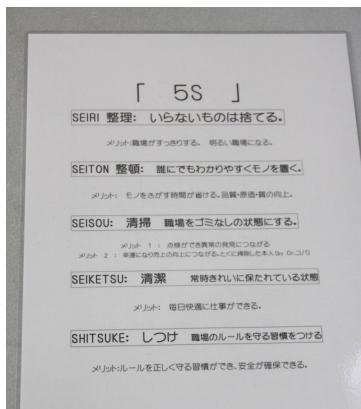
## | 日々の掃除から

社内環境を保つ取り組みとして、5S（整理、整頓、清掃、清潔、躾）を軸とし、毎朝10分間、社員全員での清掃を行っています。社員一人ひとりが物の配置を整理し、把握するようになったことは、社員の作業時の怪我防止を実現しました。

また、社内の細かな汚れにまで意識がいくようになり、ガラスの傷によるクレームがゼロになるという事業自体の改善にもつながりました。

## | 次世代に「地球」を受け継ぐ

西尾硝子鏡工業所では環境に配慮した経営をしています。ガラスは100%リサイクルのガラス材を使用し、社内で出た廃材もリサイクルしています。また、こまめな節電による電力使用量の削減や加工時の工業用水の節水にも取り組んでいます。これらの小さな取り組みの積み重ねが認められ、多くの大手企業の取引基準とされる環境経営システムの一つである「エコステージ」のステージ1を獲得しました。今後も、ステージ2・3を取得し、信頼性をより高めていこうと考えています。



工場内に貼ってある「5S」の標語。他にも節電を呼びかける札などがいたるところに掲示されている。



工場内のガラス分別箱。右上にラベルを貼ることで分別時の間違いを防止する。

# 社員への思いやり

西尾硝子鏡工業所は、働きやすい職場づくりに力を入れています。社員が健全な状態で、安心して働くことができるように、サポートしていきます。

## | 社員の健康を守る

全国硝子業健康保険組合推奨の「健康企業宣言」を採択し、健康経営プロジェクトを実施しています。健康経営プロジェクトの内容としては、①健康診断の受診率100%、②健康診断結果の活用、③職場の健康づくり環境の整備、④「禁煙」への取り組み、⑤「食」への取り組みを挙げています。このような取り組みにより働きやすい環境を整えることで、全国健康保険協会の「健康優良企業銀の認定」取得を目指しています。

「食」への取り組みの具体例として、「オフィスで野菜」という外部企業の福利厚生サービスを導入し、新鮮な野菜を使用した野菜ジュースやサラダを100円で販売する場を設けました。社員の健康面に配慮した様々な取り組みを行っています。

## | 多くの人に職人への道を拓く

製造業は力、技能、知識など様々な能力が必要とされる仕事です。それぞれの得意なことを任せることで、ものづくりに興味がある人すべてが働きやすい環境を整え、一人ひとりのやりがいを大切にしています。

製造業界への扉を広く開くことで、日本の労働力不足解消の一端も担っています。



工場内の、野菜を入れる冷蔵庫（夕方に撮影）

「OFFICE DE YASAI」

人気なので商品が売り切れている。



機械整備の様子。それぞれの「好き」「得意」の気持ちを尊重し、何事も挑戦できる職場環境。

# 技術と理念

西尾硝子鏡工業所は80年以上続く老舗企業です。今ある知恵や技術、仕事への想いはこの長い歴史の中で、時代に合わせて変化しながら誕生したものです。今日まで存続することができたノウハウを次世代へ伝承することは、老舗企業である西尾硝子鏡工業所の使命ともいえるでしょう。

西尾硝子鏡工業所では高い技術力や人を想う気持ちを伝承するために様々な取り組みを行っています。

## | 教える・学ぶ

ものづくりにおいて職人の技術は宝です。西尾硝子鏡工業所では、一つの技術を複数人が行うことができるよう「一技術三人体制」による組織づくりを進めています。お客様のニーズに合わせた挑戦をしていくためには、職人の技術や知恵が不可欠です。そこで、全社員の技術を数値に置き換え、「見える化」することにより、技術の伝承に偏りがないか確認することができます。自ら考え技術を駆使するためにも、密なコミュニケーションをとり謙虚に育みあうことを西尾硝子鏡工業所は大切にしています。さらにこの取り組みは、世代の垣根を越えて話がしやすい環境づくりという点で職場の雰囲気の形成にもつながっています。



次世代への技術伝承を行っている。

一緒に作業することで、世代を越えて仲間へ。

## | 伝える・考える

AIやIoT化が進んでいる社会において、考え方・相手を思いやるということは人間だからこそできることではないでしょうか。西尾硝子鏡工業所ではその力が養える機会として、全社員が参加する研修会「西尾塾」を1年で4回開催しています。技術のみならず思想を継承し、企業の土台を会社全体で作っています。

言いたいことや思ったことを口にするということはなかなか難しいのですが、この会を通して伝えたいことを人に伝える訓練をしています。当初は、あまり意見を交わす場がなく、社員同士のコミュニケーションが密ではありませんでした。しかし、西尾塾を継続することにより、徐々に社員の発言が増えるようになりました。さらに、職場内でのコミュニケーションが円滑になり、作業効率の上昇にもつながりました。部門を越えた活動が行われることは、会社全体に一体感をもたらします。また、自社の経営状況を考えあうことにより、目標とやりがいが生まれ一人ひとりが自主的に考え方行動できる社員を育成し、成長をサポートしています。

7月の西尾塾  
「事業発展計画発表会」



10月の西尾塾  
「半期を振り返る会」



# 職人にとって「一技術三人体制」とは

— 職人の目線から見た「伝承」の形 —

今回インタビューに答えたのは西尾硝子鏡工業所の技術を伝承している「宝」を代表して、この2人。



中田 浩二 (なかた こうじ) 勤続38年

以前：金物加工

現在：加工（金物含む、切込みetc.手加工）

および後進の指導



伊藤 満次 (いとう みつじ) 勤続41年

以前：加工（機械）

現在：加工（接着）および後進の指導

「お客様が

希望する以上のものを

提供する。」

技術は手で覚えるものという印象とは裏腹、一技術三人体制に抵抗はなく、むしろ一技術三人体制の導入は遅すぎるぐらいという印象だったという。

一技術三人体制前は、新しく人が入ってきても1年2年でやめてしまいせっかく教えたのにという気持ちがありました。ただ、こうだからと原因を教えてもらうだけでできるものじゃない。自分で経験して、失敗を重ねて、体験してやってもらえばどんどん技術は進歩すると思う。経験しないとダメ。（伊藤）

それぞれ感性も違い、探求心がある。向上心がないと先に進んでいかないし技術をどこまでやるかもその人の性格です。（中田）

ただでさえ難しい「教える」という行為。知識を詰め込むのではなく、一人ひとりを個性を持つ「人」としてとらえているということが見て取れる。

お客様から「西尾硝子鏡工業所のもの一発で仕事がおさまる。だから、高いけどお金には変えられないな」と言っていただける。もちろんお客様の期待に応えることができると、今度はもっと高い要求が来る。それでもまた応える、求められたものにプラスで返す。その過程で自分がレベルアップして、キツくないように、楽に作れるようになろう、って考えるようになる。（中田）

「ものづくりは絶対的な終わりがない」と言うように、この道40年でも新しいものが入ってくるとそれでもう、悩む。だからこそ、困難な場面で悩んだときのために数をこなして、謙虚でいなければならぬのだ。（伊藤）

西尾硝子鏡工業所の考える「サステナビリティ」はまさにこれだ。

「現社長は  
先代にできないことを  
やつている。」

3代目の現社長になったとき、西尾硝子鏡工業所では仕事をインターネットで受注するようになる。先代（2代目）の社長の時代は半月に1回は、仕事の受注などがなくてもお客様の顔を見に行き、自分の足で歩いて営業していた。始めこそは、その変化に納得できなかったが、時代の流れでは今のやり方が正解だったと捉えている。（伊藤）

時代に対応しながら新しいやり方を受け入れ、私たちが共有する技術を次世代に伝えていく姿勢が窺える。

西尾の技術を絶やさない、継承している「宝」である職人。  
西尾硝子鏡工業所として「お客様に寄り添い続ける」ために変わり続ける。  
技術を伝えることを優先し、その熱い想いを次世代へと伝えている。

# NISHI の工場見学

西尾硝子鏡工業所の工場見学は皆様にものづくりの現場をお届けする「反射」と、私たち自身が「見せる」ものづくりを意識する「透過」の両面を併せ持った取り組みです。

西尾硝子鏡工業所では工場見学を大田区内の他社工場、旅行会社と提携・協力し、産業観光事業として展開しています。産業観光とは最先端の技術や伝統産業などを資源とする新しい観光のあり方です。近年何かを学ぶ・体験することで知的好奇心を満足させる体験型の旅行が注目されています。

西尾硝子鏡工業所でいえば、ものづくりの現場や働く社員の姿が観光資源です。日常に溶け込んでいるガラスや鏡をより深く興味を感じてもらうべく、ネットで調べただけではわからない、直接自分の目で見るからこそわかる“リアル”を体感・体験してもらっています。

工場を一つのショールームと捉え、工場内の資材や備品の整理・美化をしていくことで、お越しいただいたお客様に「訪ねて気持ちのいい工場」と思っていただけるような空間づくりをしています。社員一人ひとりが服装や言葉遣いという細かな部分から意識を改めることで、工場見学をお客様に対する「おもてなし」にしています。

工場見学には「ものづくりを次世代に伝え、つないでいく」という想いが込められています。実際の現場を見てもらうことで、次世代の産業を担う子どもたちや製造業をあまり知らない方など、様々な方に、職人技のすばらしさや奥深さ、ものづくりの楽しさを知つていただくことのできる機会となっています。

## | 工場見学の様子



東京都中央区佃中学校の生徒への工場説明。

この中から未来の職人が生まれる可能性も。



運ばれた元板を色々なサイズにカットする機械。

ガラスに傷を入れて、切断します。

子どもたちをはじめとする多くの方に、体験を通してものづくりの現場に触れてもらうことで、「こんな人達がこんな風に造っているんだ」という物語を知る楽しい瞬間を提供しています。ガラス業界や製造業に魅力を持ってもらい、「入ってみたい」「やってみたい」という次世代の職人を生み出すきっかけとなり、ものづくりに携わる職人へ憧れが抱けるように、業界がより多くの人々に広がっていくようにしていきたいと思います。

また西尾硝子鏡工業所が工場を構えている大田区には羽田空港があり、日本を訪れる海外からの観光客の方が多くいらっしゃいます。羽田空港を利用して大田区を訪れる方が、旅行の際に工場に立ち寄って見学・体験することができるプランを考えています。そうした海外のお客様にも西尾硝子鏡工業所を知っていただけるよう、英語版のホームページを作成しました。今後は中国語版をはじめとする複数言語のホームページも作成し、様々な国の方々のニーズに対応していきたいと考えています。

この産業観光型の工場見学では西尾硝子鏡工業所の工場が、社員をお客様やガラス業界・製造業について知らない子供たち、海外観光客につなぐ一つのメディア、伝達するための手段となります。さらに、地域で一体となった観光事業として発信していくことで、大田区全体が日本の産業を海外に結びつける広大なメディアとなっていくのです。



UVライトを当てながら、気泡が入らないように接着している。



加工したガラスや鏡にフィルムを貼る機械。  
ほこりや塵一つ許されない繊細な作業です。

## 地元大田区に根差した



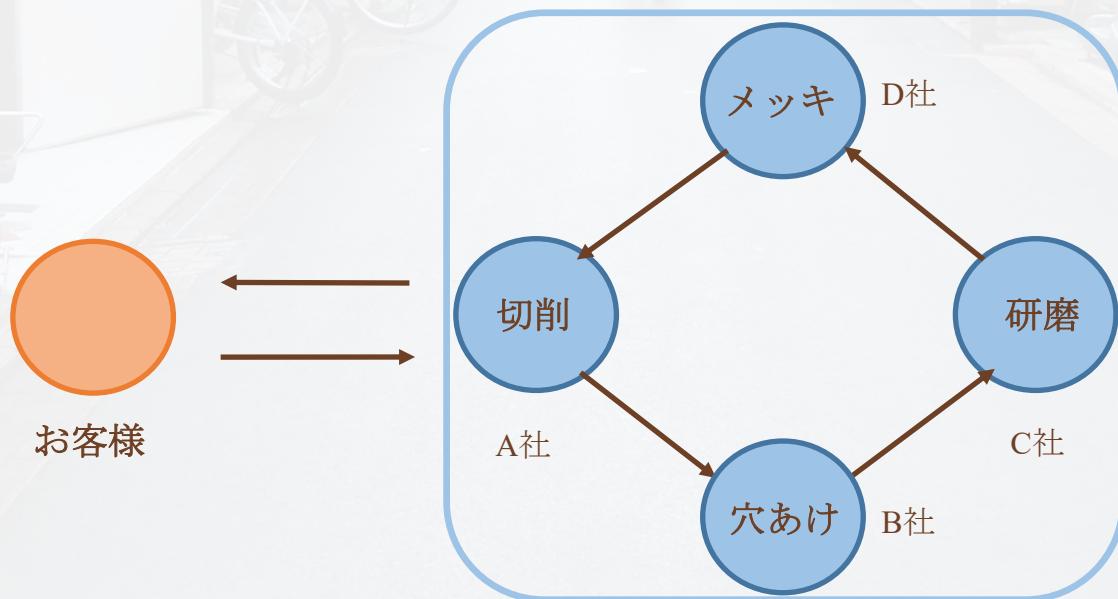
大田区は「ものづくりのまち」「中小企業のまち」として全国的に知られており、約3500もの工場があります。町工場の多くは中小企業であり、作業工程を他社工場と分担し合う「仲間まわし」と呼ばれるネットワークを活かして、昔も今も日本産業の屋台骨となり、先端技術の開発を支えています。

大田区は東京や横浜などへの交通アクセスも良く、羽田空港を有することから、海外観光客をはじめとする多くの方々が訪れています。

高い技術を持った町工場だけでなく、賑わいのある商店街、閑静な住宅街や自然が広がる緑地など、様々な顔を持つユニークなまちです。その大田区に会社を構える西尾硝子鏡工業所では、地域に寄り添った経営を大切しています。

### 仲間まわしとは？

一つの商品を作り上げるために大田区内の工場で工程を分担すること。



## 共存・共生したものづくり

実際に「仲間まわし」のネットワークでは、大田区の他社企業と作業工程を分担し、お互いの強みを活かし、弱みを補完し合うことで共存・共生のものづくりを行っています。コミュニティ間の密なネットワークを活かし、地域経済と互いの企業の発展に寄与しながら課題解決を進めることができます。

大田区全体で広く行われているこの取り組みは、「ものづくりのまち」として永く持続していくための力となっています。

西尾硝子鏡工業所でも、DUALに取り付けるLEDライトに大田区内のメーカーの製品を使用するなど、「仲間まわし」のネットワークを活かしたものづくりを行っています。

## 工場と住宅の調和

87年変わらず同じ場所で事業を続けてきた中で、大田区の環境と住民の方々の存在、それによる経済の流れは幾度となく変わってきました。

西尾硝子鏡工業所は長年大田区の支えを受けてきましたが、一方で大田区の経済を回し支える側でもあります。企業が大切にすべき地元との「相互扶助」の精神から大田区に還元するべく、地域の方々が安全で快適に暮らしながら、工場の生産体制も維持できるような「住工調和」の経営を続けています。工場と住宅が混在することによって発生する、工場の騒音や搬入時の事故などのトラブルに最大限配慮しています。



# 創業時からの歴史と想い



初代社長西尾五一朗は幼いころに親元を遠く離れた東京の硝子店に奉公に出ました。ホームシックになることもありました。そのようなときは富士山を見ることで自身を奮い立たせていました。そして元気になった自分自身を見直そうと目にした鏡はひどく汚れていたのです。鏡は自分自身を映し出すもの。美しい鏡をつくることで人々を笑顔にしたいと思い、1932年、大森に製鏡業の西尾商店を創業します。

戦時中鏡は贅沢品だったため売り上げは低迷しました。1943年、大森も空襲で焼け野原になり、事業も中断に。終戦後、自宅がどこにあったかもわからない状態の中、ガラスが大量に溶けた跡を見つけます。初代社長は家があったと考えられたその場所で再び事業を始めました。

その後も「鏡よりも食べ物」という時代は続き、唯一鏡を買っていたのは米進駐軍でした。当時、鏡の取引は金銭ではなくチョコレートで行われており、チョコレート欲しさに子どもたちが米兵に渡すための鏡を求めて来ることもありました。初代社

長はとても人情深く、やって来た子供たちに鏡をすべて配ってしまうような人でした。その「人を想いやる心」は現在の西尾硝子鏡工業所の軸ともなっています。

1963年、2代目社長となる西尾忠昭が事業を継ぎます。彼は大企業が鏡の生産を始めたことから会社の方針を変え、現在のスタイルであるガラスと鏡の「加工業者」としてスタートを切りました。

そして2000年、3代目となる現社長西尾智之が就任すると、社会の流れを読み会社形態を有限会社から株式会社に改めます。

西尾智之は2008年のリーマンショックによる経営不振をきっかけに、「企業の目的は拡大することではなく、永く続くことである」と認識するようになりました。「永く続く」のは「永く選ばれ続ける」ことの結果です。現在、西尾硝子鏡工業所は社会と共に存・共生する事業展開で「100年企業」を目指しています。





# NISHI の受賞歴

西尾硝子鏡工業所の受賞歴の一例をご紹介します。

- ・「KAIKA Awards 2018 (※1) の特選紹介事例」として

当社の「組織開発による戦略の浸透と社員のコミュニケーションの活性化」が選出  
(日本能率協会主催)

- ・2018年度大田区「優工場」 (※2)

(公益財団法人大田区産業振興協会より)

- ・2018年度大田区中小企業新製品・新技術コンクールにて、

新製品ハーフミラーディスプレイケースDUALが「おおた秀逸技能賞」を受賞  
(公益財団法人大田区産業振興協会より)

- ・2017年度「大田の工匠 技術・技能継承」

(公益財団法人大田区産業振興協会より)

- ・2015年度第8回経営者「環境力」 (※3) 大賞

(認定NPO法人環境文明21より)

- ・2013年度「中小企業技能人材育成大賞 奨励賞」 (※4)

(東京都産業労働局より)

- ・2013年度第11回「勇気ある経営大賞 優秀賞」 (※5)

(東京商工会議所主催)

※1 : KAIKA Awards とは個人の成長、組織の活性化、組織の社会性を同時実現し、新しい価値を創出する組織・取組みを表彰する制度。

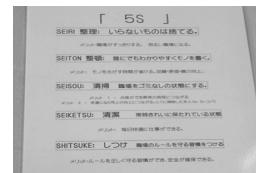
※2 : 大田区内の製造業を営む中小企業において、実務指導者と若手技術者による企業内または、企業間で実施されている技術・技能の継承についての優れた取組みをした企業に与えられる賞。

※3 : 環境の世紀をリードする企業経営者としてすぐれた「環境力」を備えていると認められた。

※4 : 優秀な技能者の育成と技能継承に取り組み、特に成果をあげた中小企業等を東京都が表彰しているもの。

※5 : 革新的あるいは創造的な技術・技能やアイデア、経営手法等により、独自性のある製品・サービスを生み出しているなど、厳しい経営環境の中で勇気ある挑戦をしている企業に顕彰されるもの。





## 編集後記

私たちが西尾硝子鏡工業所の「Sustainability Report」を作るうえで、西尾硝子鏡工業所のどの部分をどれほど盛り込むべきかとても悩みました。なぜなら西尾硝子鏡工業所には創業87年も続く信念とその実績が豊富にあるからです。そのサステナブルな活動は地元地域の大田区から、世界規模ではアラブ首長国連邦まで多岐にわたります。

その中で私たちがこの報告書で一番伝えたかったのは、西尾硝子鏡工業所の「熱い想い」とそれに併せ持つ「謙虚さ」です。初代から今なお変わらず続く不易流行とお客様を大切にし、信頼される姿は、当たり前であるようでとても難しくその道のりは困難であっただらうと感じます。西尾硝子鏡工業所は搖るぎない心で、力強くガラス業界に根を張っています。

一般消費者にとっては身近過ぎて、あまり重要性が感じることができないガラスや鏡。私たち学生もこのプロジェクト前までは日頃意識して視ることもありませんでした。ですが、受注してくださったお客様に寄り添い、その期待を超えていく西尾硝子鏡工業所の姿勢から、熱い想いと努力を垣間見ることができました。

さらに、西尾硝子鏡工業所の本当に素晴らしい点はその努力をひけらかさないことにあるのではないかでしょうか。だからこそ西尾硝子鏡工業所はハイブランドをはじめ多くのお客様から愛されています。だからこそ、さらなる進化をすべく社内環境の向上など、努力を怠らない姿勢があるのだと思います。

私たちは、この報告書を作るにあたり、数多くの企業のCSR報告書やCSRの考え方について学んできましたが、西尾硝子鏡工業所の企業、社会の発展のためにある熱い想いはどこにも負けていません。下町工場の温かく熱い人間味、そして第一線で活躍するスタイリッシュさ。そのような二面性を併せ持つ西尾硝子鏡工業所を感じていただけたらと思い作成しました。

武藏大学三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

西尾硝子鏡工業所担当チーム





GLASS THAT BREATHES LIFE INTO SPACES  
NISHIO GLASS MIRROR CO.,LTD.